

「原東海軍」の地域集団と武器

藤村 翔（富士市教育委員会文化財課）

はじめに

天武天皇元年（672）、壬申の乱で「甲斐勇者」と共に「東海軍」として招集された東海各地の国造や舍人らの活躍ぶりは、6・7世紀の古墳被葬者の武人的性格からも窺える。ここでは彼らを中心とする軍事組織を「原東海軍」と位置づけ、彼らの武器や生産基盤を検討することで、倭王権の交通政策や軍事戦略に迫る。

1 「原東海軍」の地域集団

6・7世紀の東海地域を倭王権中枢と東国を繋ぐ中間域と捉えると、海沿いの原東海道、内陸の原東山道という2大幹線地帯を軸に（鈴木2019）、両幹線を繋ぐ中継地域（ジャンクション）が加わり成り立つことがわかる。原東海道は伊勢・志摩地域から三河東部・遠江・駿河地域に至る経路であり、途中に伊勢湾を渡航する海路を挟む点が後の古代東海道とは大きく異なる。

遺体を埋葬した横穴式石室の形態差は、石室内の空間利用や儀礼の差とも関わることから、被葬者の系譜や出自を示すと考えられる。東海各地では7世紀前半頃までに幹線地帯で畿内系石室を上位とする階層構造が成立するほか、中継地域では三河系石室や川原石積み石室、無袖石室といった在在系を含む石室を上位とする階層構造が成立する。任地で期待される役割により、特定の出自集団が重視された可能性がある（図1）。武器や馬具の材質や量により表現された集団内部の階層性も考慮すれば、地域や集団単位で統制された軍事組織が東海各地に並立していたと考えられる。

2 東海の装飾付大刀と交通体系

集団の指導者へ倭王権が配布したとされる装飾付大刀に着目すると、東海地域では単竜鳳環頭大刀が遠江東部・駿河東部地域に集中する点、三葉・三累などの特殊な環頭大刀が三河西部地域に集中する点、双竜環頭大刀が広範に分布する点、頭椎大刀が原東海道沿いに分布する点などが指摘されている（岩原2005）。ここでは、頭椎や圭頭・円頭などの袋頭大刀のほか、銀象嵌装大刀が原東山道・原東海道の2大幹線沿いに分布する点に注目したい（図2）。袋頭大刀や銀象嵌装大刀の保有者には、王権から第一に軍事活動が期待されたとされるが（内山2019）、幹線交通の管理・警備も担った可能性がある。

3 富士山ジャンクションの開発と武人集団

2大幹線を繋ぐ中継地域として、富士山を挟み南北に位置する甲斐・駿河東部両地域が倭王権にとって軍事的に重視されたことは、袋頭大刀や銀象嵌装大刀の濃密な分布からも窺える。

南麓の伝法古墳群では、鍛冶具の鉄鉗を含む豊富な農工具を有する中原4号墳や、高句麗系の儀器とみられる丁字形利器を有する東平1号墳など、手工業生産や渡来系集団との関りが深く、銀象嵌装大刀などの多量の武器を保有した指導者の墳墓が継続して築造される。渡来系技術者たちを従えた伝法古墳群の集団により、富士南麓の開発が進められたと考えられる。

また浮島沼ラグーン周辺では、愛鷹山古墳群の集団により、上宮王家との関わりの深い稚贄屯倉（仁藤1996）を連想する複合的手工業・水産加工拠点集落（中原遺跡）を中心に牧の経営や山麓の開発が行われたとみられる。石室形式などからは、富士・愛鷹山南麓に親和性の高い集団が展開したとみてよい。

さらに甲斐・駿河東部両地域は、無袖石室（図3）や擬似積石塚、籠手の副葬、鉄鍬（図4）や精製土師器の形態、五角形堅穴建物や牧の存在などに共通点が多く（藤村2022）、北接する東信地域も含め、系譜的に近い集団による地域開発が行われたことが推定できる。

おわりに

6・7世紀の原東海道沿線には、埋葬施設の形式や規模、武器の多寡によって階層性が表象された軍事組織が並立し、幹線交通の円滑化を担ったと考えられる。なかでも甲斐—駿河地域間には、自前で武器や馬を用意して原東海道および重要中継路の管理や警備、さらに遠方への派兵に対応できる集団が、倭王権によって集中的に配置されたと考えられる。

主要参考文献

- 岩原 剛 2005「東海地域の装飾付大刀と後期古墳」『装飾付大刀と後期古墳』島根県教育庁古代文化センター他
内山敏行 2019「大刀・甲冑・馬具からみた関東と東海東部の首長墓」『賤機山古墳と東国首長』雄山閣
鈴木一有 2019「東海地方における古墳時代後期の地域社会」『賤機山古墳と東国首長』雄山閣
仁藤敦史 1996「駿河・伊豆の堅魚貢進」静岡県地域史研究会編『東海道交通史の研究』清文堂出版
藤村 翔 2022「古墳・飛鳥時代における富士山南麓の開発と環富士山ネットワークの形成」『富士学研究』17-2 富士学会

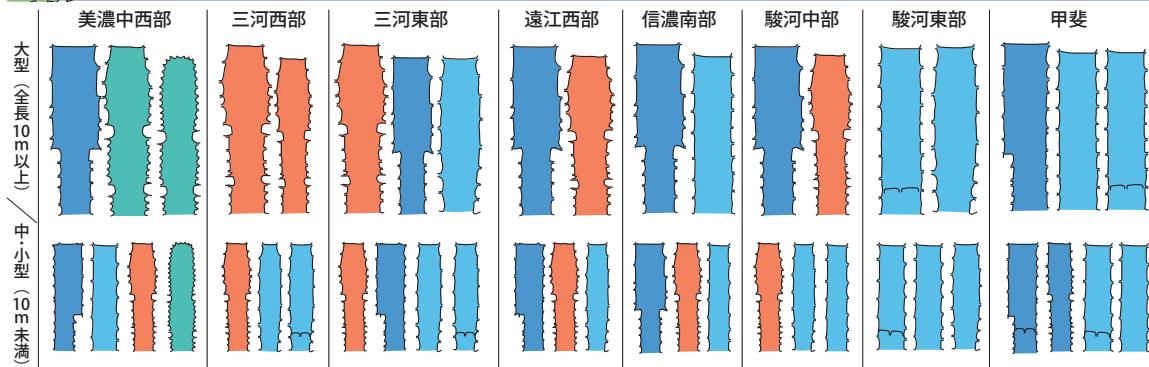
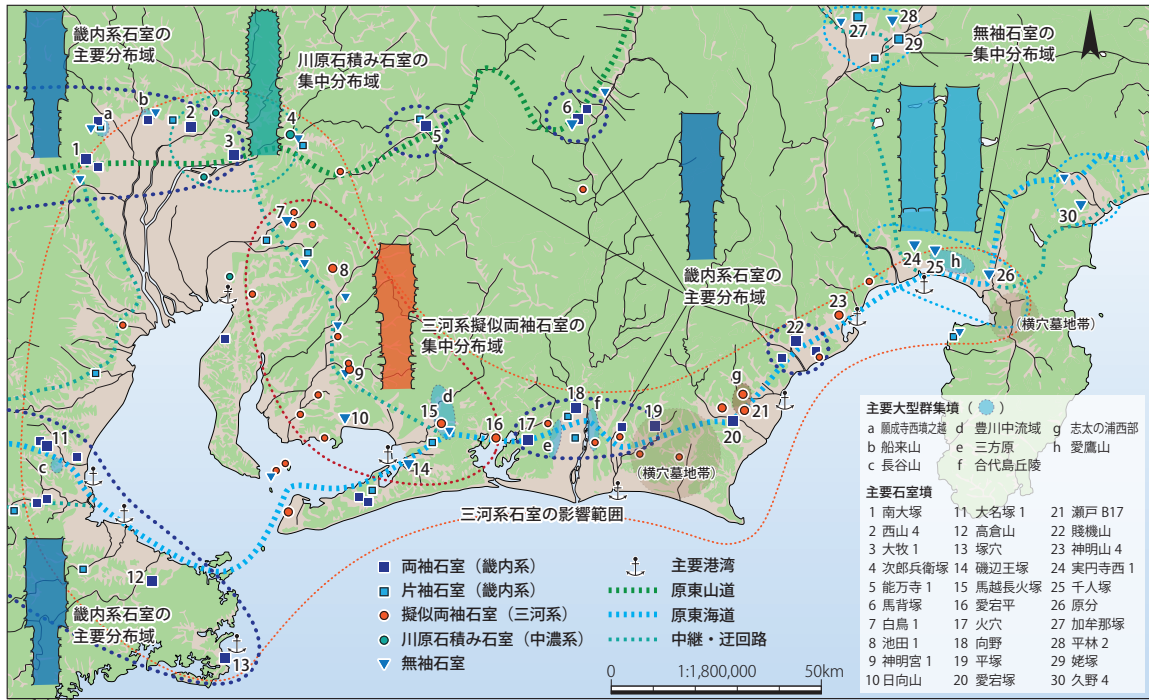


図1 東海の横穴式石室形式と階層構造 (6世紀後半～7世紀中頃)

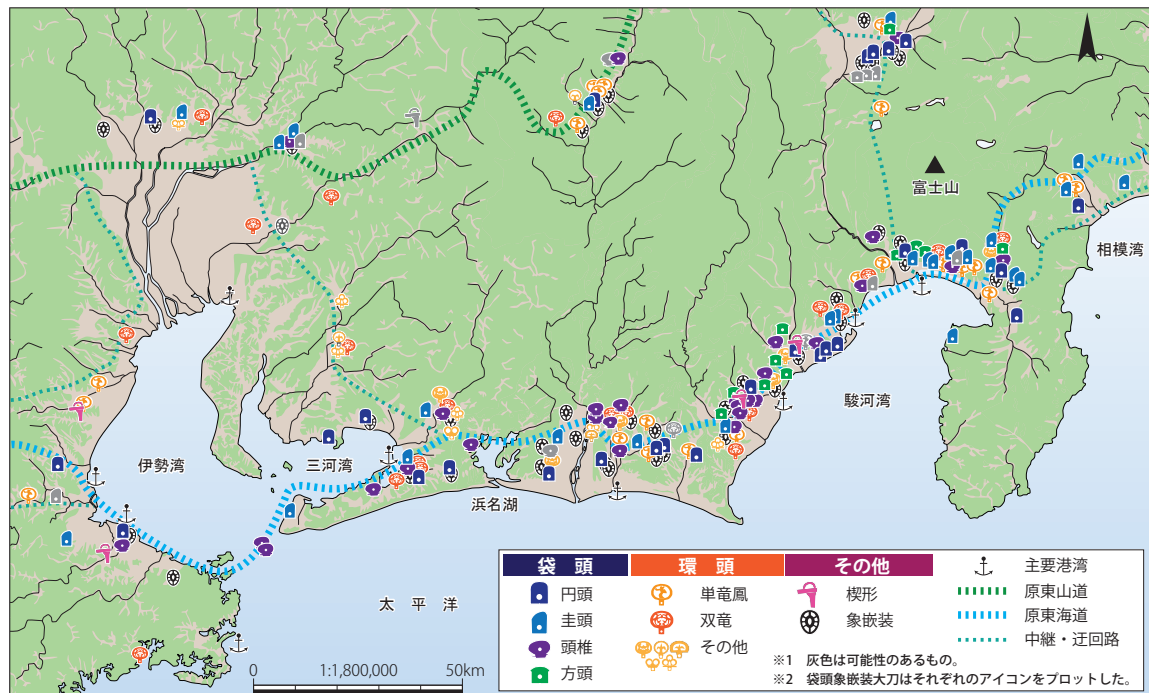


図2 東海の装飾付大刀分布 (6世紀後半～7世紀後半)

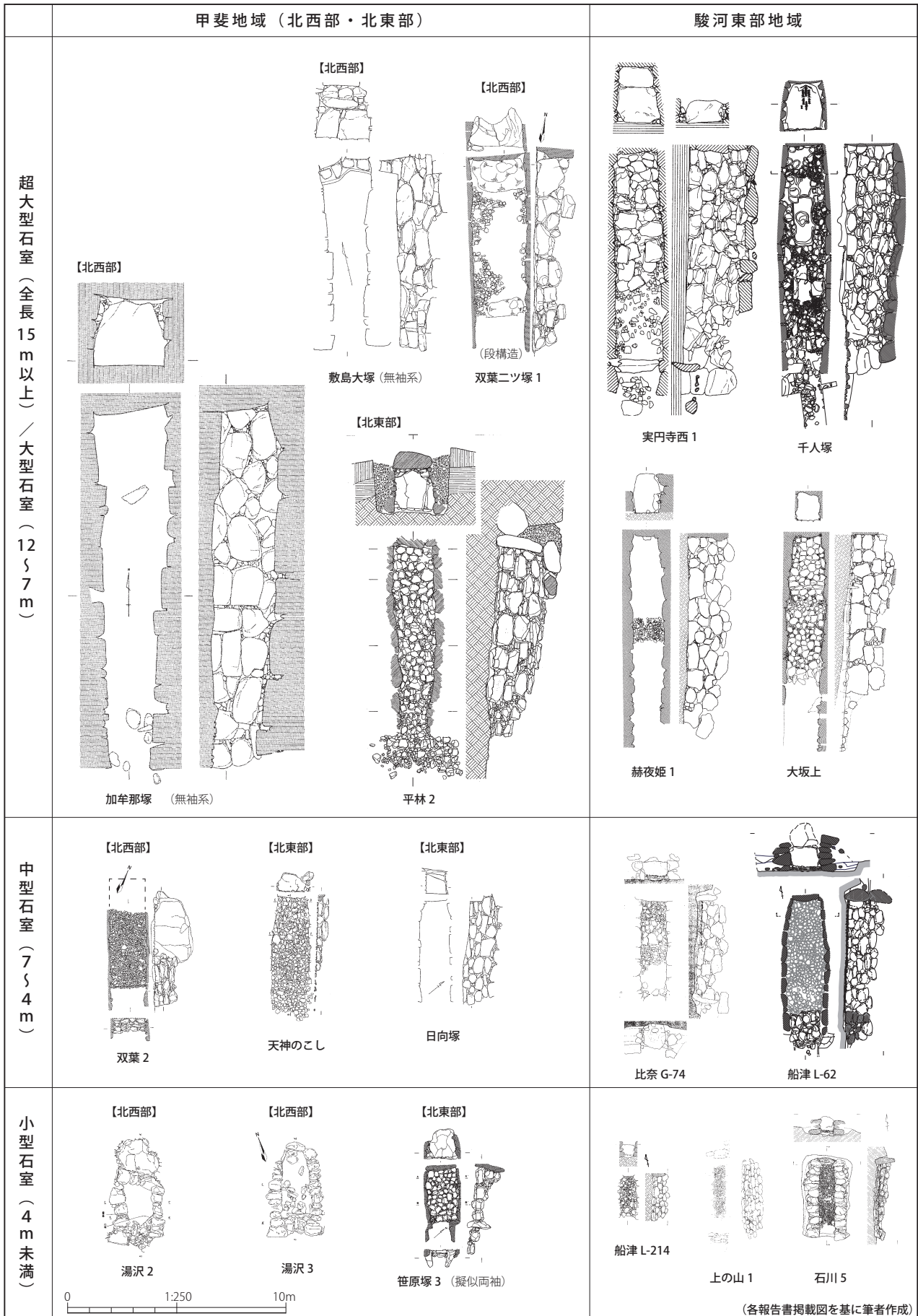
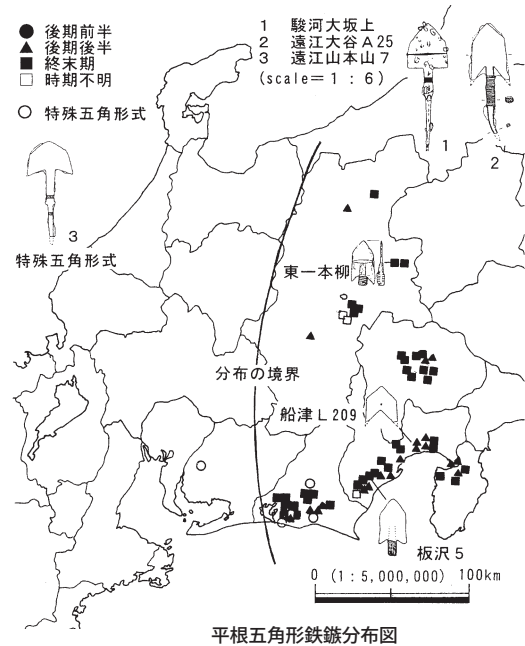
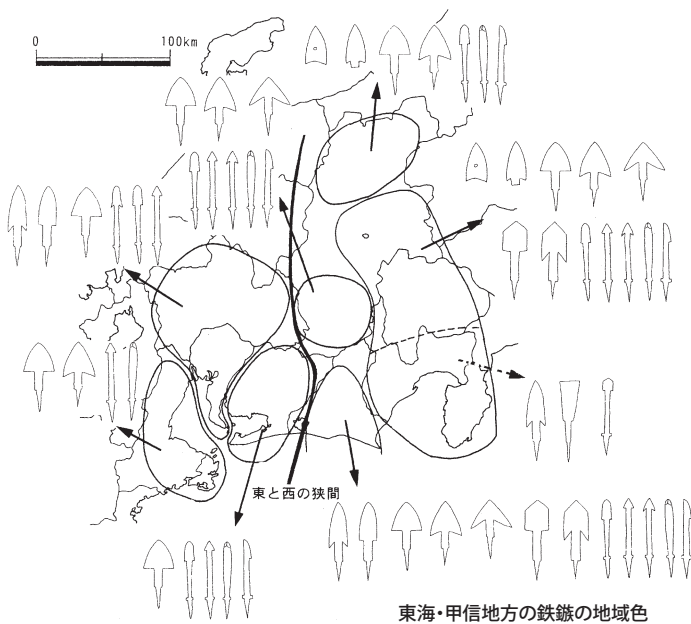


図3 甲斐・駿河地域における無袖形石室を中心とした階層秩序



(大谷宏治 2004「東と西の狭間—古墳時代後期の鉄鍬にみる東海・甲信地域の特質—」『財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 設立20周年記念論文集』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所)

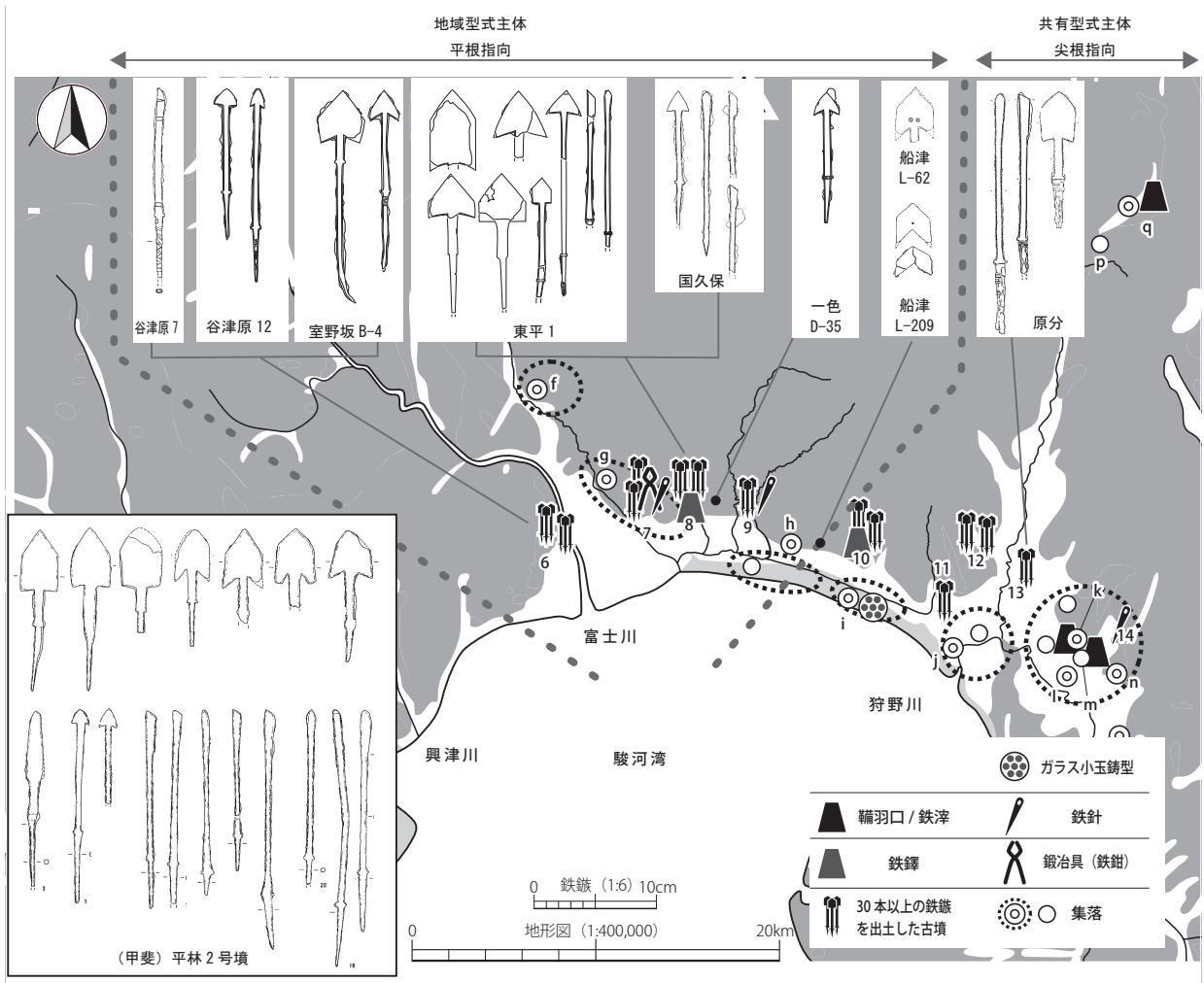


図 4 鉄鍬の地域性と駿河東部地域の手工業関連遺跡